

(様式4)

食育パートナーシップ事業 ～ (子育て世代の食育推進) ～

健康福祉事務所名 朝来

1 食育推進状況

食育推進課題	1日2回以上バランスの取れた食事を摂れていないなど、子育て世代には食課題が多い。保護者の食の関心が二極化するなど食育を担う保育関係者の更なる資質向上が必要。
推進方策	家庭の推進を支援する保育関係者の指導力を向上し、実践につながる助言・支援により、子育て世代の食育推進強化を図る。
進捗状況	保育関係者の子どもの咀嚼機能や食育に関する意識が向上した。家庭への支援や充実には引き続き対策が必要。

2 食育関係者

保育協会(各支部) 南但馬生活研究グループ 連絡協議会 いずみ会(各市) 学校給食センター(各市) 各市健康主管課 各市保育所主管課 農林振興事務所 農業改良普及センター 健康福祉事務所
--

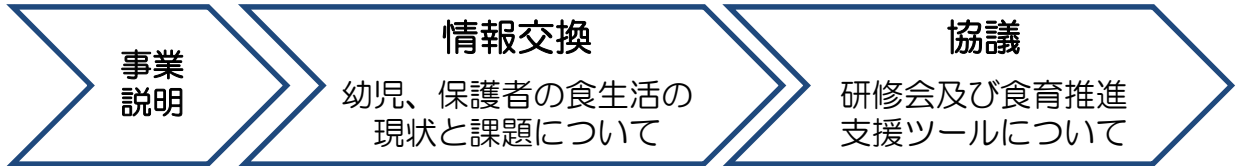
3 食育パートナーシップ実践活動の概要

実施テーマ	子育て世代への食育推進		
対象及び参加者数	保育所職員67名、管内こども園・保育所を利用する保護者470名		
課題及び目標	子どもの摂食嚥下機能の発達を促す手法、保護者への助言・支援方法を習得し、保育関係者の家庭への指導力向上を図る。		
事業内容	日時・場所	内容	講師・運営スタッフ
	平成28年11月5日(土) 14:00～16:00 さんとう緑風ホール	講義:「こどもの摂食嚥下機能の発達を促す食育について」	保育協会、健康福祉事務所
	平成28年9月～平成29年2月 朝来健康福祉事務所	家庭に向けた食育を推進するための支援ツール検討及び作成	保育協会、こども育成課、健康福祉事務所
平成29年2月～3月 管内こども園・保育所	支援ツールを活用した情報発信及び子育て世代の調査	保育協会、こども育成課、健康福祉事務所	
評価結果	研修会の計画・企画評価:咀嚼の重要性、咀嚼習慣の定着や保護者への情報提供などの食育活動の事例紹介により、保育関係者の理解が進んだ。 管内保育施設対象の調査:啓発資材は概ね適切であり、保護者への助言・指導に活用された。保育職員対象の食育事業は概ね期待通りであった。 子育て世代への実施評価:回収率48.1%。朝食の喫食状況95.6%、食育への関心がある86.6%、食育への実践62.2%。		

子育て世代の食育推進

～子育て世代への食育～食育検討会

平成28年9月28日(水)朝来健康福祉事務所 栄養指導室



幼児・保護者の食生活と現状と課題について

- 給食で保育士と一緒に食事をすると喜ぶ子どもがいる→家庭では子どもだけで食べている？保護者が食事の準備をしながら、子どもが先に食べている？
- 和食を食べる機会が少ない。給食で初めて食べる食材もある。
- ひじきなど作りおきできる副菜の作り方を保護者が知らない。
- 保護者が忙しく、食事の内容に気を配れていない現状がある。
- 朝食内容が単調になりがち。

研修会や啓発資材について

- 子どもの咀嚼習慣や箸の使い方は保育関係者間で議題によく上がる。
- 保護者自身が噛む習慣が無いと、子どもも同じ傾向にある。

保育関係者向け研修会

講演：「よく噛んで食べると、食事がもっと楽しくなる」
講師：学校法人近畿大学農学部食品栄養学科 准教授 富田 圭子 氏
場所：朝来市さんとう緑風ホール



よく噛むと、
様々な音が
鳴っている♪

食が果たす役割や子育て世代への食育が求められている背景、食事での咀嚼習慣が定着することによる効果、子どもへの食育事例について講演していただきました。

保護者向けリーフレットの作成

食に関心が低い家庭へ、
手軽に主食・主菜・副菜を
揃えた食事の啓発

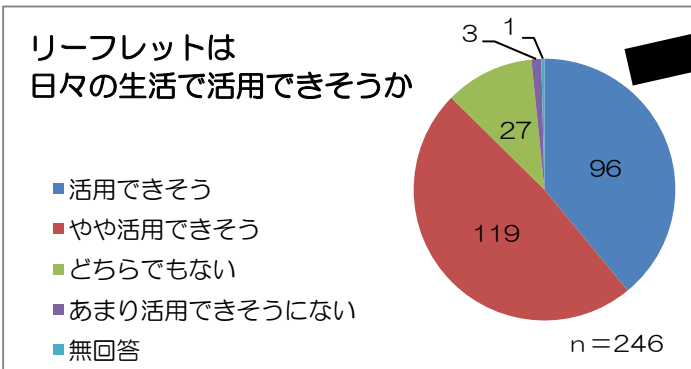


平成 27・28 年度の研修会
テーマとした咀嚼習慣に
ついて

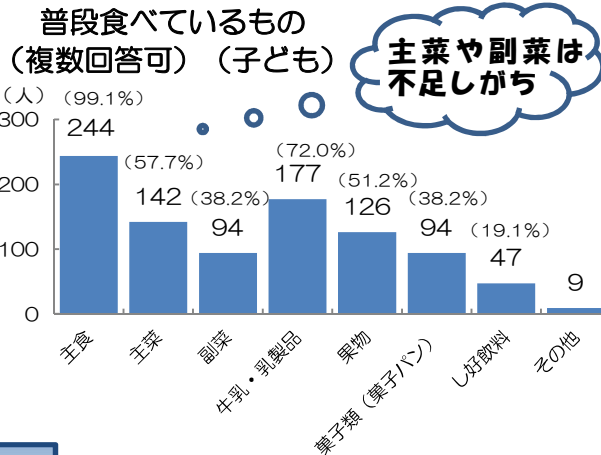
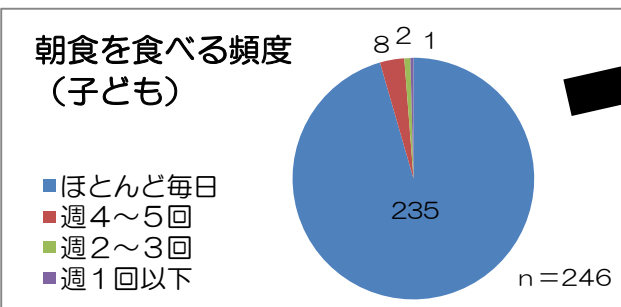
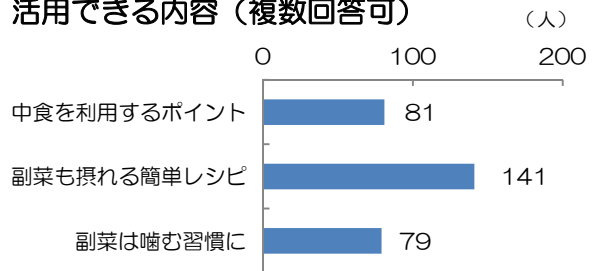


保護者対象のアンケート

管内こども園・保育所に通園する主に4歳児の保護者 470 名を対象に実施。
(回収率 48.1%)



活用できる内容（複数回答可）



南但食育推進ネットワーク会議

南但各機関・団体
の食育推進状況報告

食育の成果と課題
今後の取り組み方策

地域の各機関・団体により、乳幼児期～高齢期まで食育の取組が実施されている。
庁内連絡会により、市内の情報共有が図られた。